

小林鷹之からの手紙

たかゆき

アグリフードEXPO東京2015

介護の担い手について

絆を力に。2015年 vol.27 「討議資料」
衆議院議員
自民党千葉二区支部小林鷹之事務所発行
(八千代市・習志野市・千葉市花見川区)

[HP]kobayashi-takayuki.jp

[twitter]twitter.com/kobahawk

[Facebook]www.facebook.com/hawk.kobayashi

活動報告



- 1 習志野市の小学生と「ルール」について勉強会
- 2 キッコーマン(株)の茂木友三郎名誉会長をお招きして勉強会を主催
- 3 地元中小企業の現場へ
- 4 週末は各地区で国政報告会
- 5 地元の伝統行事
- 6 厚生労働省から講師を招き、地元で介護勉強会
- 7 地元の一つ一つの声が活動の糧
- 8 毎朝の駅頭活動と、週末の街頭演説は継続中
- 9 千葉刑務所や更生保護施設の視察

元女子ソフトボール日本代表監督

宇津木 妙子様

講演会および実技指導会

平成27年

11/3 火

参加自由

第一部 実技指導

時間: 13:30~15:30

場所: 習志野市立実花小学校グラウンド
(雨天の場合: 谷津南小学校体育館)

第二部 講演会

演題: 「夢に向かって」

時間: 17:50~19:00

場所: 習志野市大久保市民会館
京成大久保駅から徒歩1分



PROFILE 小林鷹之 プロフィール

東京大学法学部卒業。ハーバード大学行政大学院修了。
財務省課長補佐、外交官を経て現在衆議院議員 2 期目。予算・外務・東日本大震災復興の各委員会委員、自民党外交部会／財務金融部会の副会長、青年局次長他、各種事務局を務める。一女の父。

八千代事務所 〒276-0042 千葉県八千代市ゆりのき台3-3-5 アットホームセンター 第2ビル202号室
TEL 047-409-5842 FAX 047-409-5843
国会事務所 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館417号室
TEL 03-3508-7617 FAX 03-3508-3997

介護の担い手について

今年も夏祭りや敬老会で地元の介護施設を訪問。介護の現場の声を数多く頂きます。

老いた親の介護は子供が担う。これが基本だとは思いますが、しかし、直近の調査によれば、家族の介護のために仕事を辞める、いわゆる介護離職者が年間10万人を超える現状を踏まえれば、介護人材の確保が喫緊の課題となっています。先日安倍総理も「介護離職ゼロ」の方針を打ち出しました。

都道府県推計によれば、平成37年度には介護人材が約38万人不足します(需要253万人―供給215万人)。特に、都市部や被災地。私の住む千葉県の介護人材の充足率は、平成29年度97.2%―平成32年度90.5%―平成37年度80.3%と、急激な人手不足が予想されています。求人数／求職者数で算出される有効求人倍率を見ると、介護分野は他産業に比べても人手不足が相当深刻です。介護に対するイメージ調査によると、「社会的に意義ある仕事」とのプラスイメージがある一方で、「夜勤などがありきつい」「給与が安い」といったマイナスイメージが定着していることも要因となっているようです。

人は誰しも老います。我が国のみならず、アジア全体を見渡しても、高齢化とそれに伴う高齢者介護は避けられない中、介護分野を成長産業として捉えていく視点が必要です。そして、**介護従事者の方々が誇りとやりがいと安心を抱ける環境を整えていくことは政治の重要な責任です。**

介護人材の確保については、様々な手段がありますが、中でも重要だと考えるのは次の2点です。

1点目は、**介護従事者の道(キャリアパス)**を構築していくことです。職位・職責・職務内容に応じた賃金体系を構築していくこと。また、120万人近くが登録している介護福祉士のうち約50万人が介護職に従事していない中で、**離職した介護福祉士の再就業支援強化も重要課題です。**

2点目は、介護職員が道を長く歩み続けられる**労働環境の整備**です。とりわけ若い職員の方からは、「給与が低くて結婚したくでも結婚できない」といった声も伺う中で、**賃金・労働時間・休日といった労働条件の改善や、キャリアパスにおける人事評価と処遇の改善の必要性**を強く感じます。国の厳しい財政状況の下、介護報酬の大幅引き上げは難しいにしても、単に財

政上の制約から介護報酬を引き下げるやり方が良いとは思えません。むしろ、持続可能な介護制度を構築していくためには、**利用者の側における受益と負担が見合った制度への変更が不可欠**だと考えます。また、介護には人の温もりが必要ですから、ただ機械化を進めれば良いというわけにはいきませんが、職員の肉体的負担を軽減し、労働生産性を高め、長く働き続けて頂く観点からは、**介護ロボット導入支援は積極的に推進すべきです。**

最後に、介護施設の経営者の方から、介護に従事する外国人の受け入れ体制を整備して欲しいとの声をしばしば頂きます。まずは、日本の若者・女性・高齢者などによる人材確保を進めた上で、それでも不足する人材をやる気と能力のある外国人の方に求めることも必要かと私は考えます。**短期(3年)**で本国に戻ってしまう技能実習生ではなく、**介護福祉士等の国家資格を取得した外国人留学生を対象に、在留資格を付与するための法改正の動きも進めてまいります。**

平成二十七年十月吉日

衆議院議員

小林鷹之